

千葉県匝瑳市（国内 70 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 5 年 1 月 29 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は、国内 64 例目の発生農場（令和 5 年 1 月 21 日発生）から南に約 250m 及び 68 例目の発生農場（令和 5 年 1 月 27 日発生）から北に約 1.1km 離れた平野部に位置し、付近は水田に囲まれている。
- ② 当該農場は 2 階建てウインドウレス鶏舎 8 棟からなり、発生鶏舎は農場の中央に位置し、背中合わせ直立 8 段 3 列ケージ（各階 4 段）であった。発生時には、全ての鶏舎で採卵鶏が飼養されていた。このほか、当該農場の衛生管理区域内に農場事務所、集卵施設、堆肥舎等、衛生管理区域外に事務所兼直売所が併設されていた。
- ③ 当該農場は令和 3 年 2 月 8 日に高病原性鳥インフルエンザの発生が確認された令和 2 年度シーズン国内 46 例目の発生農場であった。

2 通報までの経緯

- ① 64 例目の発生に伴い 1 月 22 日に実施した発生状況確認検査において、陰性が確認されていた。
- ② 飼養管理者によると、発生鶏舎（通報時 547 日齢）の 1 日当たりの死亡鶏の平均は 13 羽程度だったとのこと。1 月 27 日に発生鶏舎 1 階の全 3 列（6 レーン）のうち最も南側に位置する 1 レーンの手前側 1 / 3 程度の下から 3 段目で 10 羽の死亡が確認され、そのうち 3 羽が同一ケージで死亡し、そのケージ内の他の 4 羽の鶏でも沈鬱や嗜眠が確認されたことから、家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ③ 調査時、発生鶏舎の殺処分は終了していたが、非発生鶏舎のうち 3 鶏舎を確認したところ、農場の最も南側に位置する鶏舎 1 階の全 4 列（8 レーン）のうち北側 2 レーン目の下から 1、2 段目の隣り合った 2 ケージでそれぞれ 3 羽のまとまった死亡が確認された。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では、10 名の従業員のうち 5 名が飼養管理を担当していた。他の 3 名は集卵作業を、2 名は堆肥関係作業を担っていたとのこと。
- ② 鶏舎内で飼養管理を行うのは 1 日当たり 3 名で、鶏舎ごとの担当者は決まっていなかったとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 当該農場の衛生管理区域と公道の境界にはフェンスと立入禁止を示す看板が設置され、衛生管理区域入口 2 か所にはセンサー式車両消毒ゲートが設置されていた。
- ② 飼養管理者によると、従業員が農場に入る際は、衛生管理区域外の駐車場に車を止め、衛生管理区域入口の事務所で手指洗浄及び消毒、衛生管理区域専用作業着への更衣及び衛生管理区域専用長靴への履き替えを行っていたとのこと。
- ③ 従業員が鶏舎に入る際は、鶏舎前室で手指消毒及び各鶏舎専用の軍手を着用していたとのこと。さらに、鶏舎のサービスルームで消毒薬（逆性石けん＋石灰乳）に浸漬した鶏舎専用長靴への履き替え及び全身の噴霧消毒を行っていたとのこと。
- ④ 鶏舎前室には、入退室時の消毒等に関するマニュアルが掲示されていた。
- ⑤ 飼料運搬業者及び集卵業者がほぼ毎日来場し、衛生管理区域へ立ち入る際は、車両消毒ゲートを通過し、持参した衛生管理区域専用の長靴に履き替えているとのこと。なお、手指消毒の実施の有無は把握しておらず、衛生管理区域専用の衣服への着替えは行っていないとのこと。
- ⑥ 月に 1 度ネズミの駆除業者が鶏舎に立ち入る際は、鶏舎専用の作業着及び長靴を着

用しているとのこと。10月以降は立ち入りなし。

- ⑦ 事務所入口に外来者用の立入り及び消毒等に関する記録簿が設置されていた。
- ⑧ 管理者によると、鶏舎ごとに同一日齢の鶏が飼養され、鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを行っているとのこと。オールアウト後は清掃、洗浄及び消毒が実施され、空舎期間は1～2か月程設けていたとのこと。直近の導入は、系列農場から発生鶏舎に隣接する非発生鶏舎に12月28日であったとのこと。
- ⑨ 鶏舎外の集卵用バーコンベア上部は囲い屋根があり、防鳥ネットで覆われていた。発生鶏舎を含む一部鶏舎からのバーコンベアは64例目発生以降更にビニールで覆われていた。卵は系列のGPセンターへ出荷しているとのこと。
- ⑩ 衛生管理区域全域への消石灰の散布及び鶏舎外壁の動力噴霧器を用いての消毒を週1回行っており、近隣農場での64例目発生の後は、農場脇公道への消石灰散布を週1回行うとともに、鶏舎外壁の消毒を1日2～3回行っていたとのこと。
- ⑪ 発生鶏舎では、鶏舎奥の壁面に設置された換気扇から排気し、鶏舎側面の外壁上部にある吸気口から吸気、鶏舎側面の内壁上部にあるインレットから給気する強制換気を行っていた。吸気口には金網(約2.0×2.0cm)が設置され、排気用の換気扇の外側には開閉可能な板、内側には約5.0cm×1cmの金網が設置されていた。インレットを自動制御で開閉することにより温湿度を調整していたとのこと。
- ⑫ 当該農場北側での64例目の発生後から、全ての鶏舎で北側のインレットを閉じ、南側のインレットからのみ給気を行っていたとのこと。
- ⑬ 発生鶏舎では、舎内側は鋼板断熱材で塞がれているが外側クーリングパッドに穴や、鶏舎奥側の扉下部に隙間等が観察された。
- ⑭ 鶏糞は、各鶏舎3日に1回、除糞ベルトで各鶏舎裏の除糞小屋に搬出し、除糞小屋で鶏糞運搬用ダンプカーに積載後、衛生管理区域内の一次発酵堆肥舎へ運搬すること。1週間から10日ほどの一次発酵の後は、衛生管理区域外の二次、三次発酵堆肥舎に堆肥を運搬し更に発酵処理をしているとのこと。他農場との堆肥舎の共用はないとのこと。
- ⑮ 除糞ピットの鶏舎内開口部は稼働時以外は板で閉鎖されていた。発生鶏舎の除糞小屋のシャッター下側にはネズミ等の小動物が侵入可能な大きさの隙間があった。また、除糞小屋内の除糞ベルトの開口部には野生動物対策のシャッター等はなかった。
- ⑯ 一次発酵堆肥舎は2棟あり、1棟は防鳥ネットが設置されていなかった。もう1棟には設置されていたが、ネットに覆われていない箇所やネットのほつれがあった。
- ⑰ 給与水には井戸水を利用しており、次亜塩素酸消毒を実施していたとのこと。
- ⑱ 鶏舎横の飼料タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低い状況であった。発生鶏舎で使用する飼料は、平常時は系列2農場と共用のバルク車で運搬されていたが、64例目発生後、系列のうち育雛農場は別のバルク車を使用していたとのこと。
- ⑲ 死亡鶏は毎日回収して農場敷地内の焼却炉で処理していたとのこと。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 管理者によると、以前は農場内で野鳥やネコをよく見かけたものの、最近ネコは見られず、また堆肥舎や集卵用バーコンベア、クーリングパッドに防鳥ネットを設置してからは農場内に野鳥が飛来する頻度が格段に減ったとのこと。調査時、防鳥ネットが設置されていなかった堆肥舎周辺に、スズメやハクセキレイを確認した。
- ② 農場周辺の畑にはタヌキやキジやイタチやイノシシやサルがいるとのこと。1月10日頃、農場周辺でカラスの大群を見かけたとのこと。
- ③ 管理者によると、発生鶏舎内でネズミを見かけることがあり、10月以降は随時、自主施工による殺鼠剤及び粘着シートの設置を行っていたとのこと。ネズミの死体を回収した場合は、鶏舎ごとに数の記録をとっていたとのこと。

(以上)